

文 献

- 北九州野鳥の会 1977 見島鳥類調査報告書. 24pp.
 日本野鳥の会山口県支部 1976 山口県の野鳥. 229pp.
 1980 山口県萩市見島の鳥類相 (第1次調査報告). 28pp.
 白石乃爾・蓮尾嘉彪 1966 角島の鳥類. 山口県の自然Vol. 2 (5): 19-25. 山口県立博物館.

BREEDING RECORD OF THE WHITE WAGTAIL *MOTACILLA ALBA LEUCOPSIS*

IN UBE CITY

SHOGO MURATA¹ AND RYOUSUKE HARADA²

We found a nest of the White Wagtail *M.a.leucopsis* in Ube City (33° 59N, 131° 16E) on May 1985. It is the first known breeding record of this subspecies in Yamaguchi Prefecture. The nest was in a hole in a pile rocks in a quarry. The parents fed their young mainly with insects belonging to the families Noctidae, Gryllotalpidae and Tipulidae.

1. 1-3-8, Nonaka, Ube-shi, Yamaguchi 755
2. Kawakami Otokoyama, Kamiube, Ube-shi, Yamaguchi 755

1985年9月18日受理

1. 〒755宇部市野中1-3-8. (山口県支部)
2. 〒755宇部市上宇部川上男山. (山口県支部)

コミミズク *Asio flammeus* の鳴き声について石川勉¹

コミミズクの鳴き声の調査を行なった京葉港埋立地は、千葉県習志野市の海岸部に位置し、1972年に干潟の埋立てが始まり1974年に完了している。北側は習志野市街、南側は東京湾奥部、東側は幕張埋立地、西側は海老川にそれぞれ接していて、面積は705haである。埋立地にはヨシ、チガヤ、アカサ等の草木が繁茂し、裸地も点在している。現在では、工場、住宅、学校等が次々と建設され道路が整備されるのにもなって、野鳥の生息環境は悪化の一途をたどっている。

1976年以降、この埋立て地でコミミズクが毎年越冬するようになった。筆者は1980年1月から1985年3月まで夜間にコミミズクの観察を行ない、その鳴き声を記録した。ここに若干の知見を得たので報告する。なお、調査日数は全部で81日であり、そのうち鳴き声を聞いたのは55日であり一部をすでに発表した(石川 1982)。

コミミズクの鳴き声は日没後の夜間に聞くことができる。鳴き声は「ギャーウー」という大きな叫び声で連続して鳴くことが多く、埋立地を東西に通る湾岸道路からの車騒音にもかかわらず、100~200mの距離からでも鳴き声を聞くことができる。その他には「ギャーウー」とか「ギャー」という鳴き声もだし、まれに「ゲッゲッゲッゲッ」という連続した鳴き声(1982. 1. 25, 1983. 1. 2)もだす。さらに「ピーピーピー」(1983. 3. 19)と「ホーホー」(1984. 3. 5)という小さな鳴き声を聞いたこともある。

鳴き声は日没後の活動開始時から2時間位の間には飛翔中の個体から聞かれ(1980. 12. 30, 1981. 1. 1, 3. 2), 深夜にはあまり聞くことがなかった(1980. 3. 24, 1984. 2. 20, 3. 5)。通常は連続して鳴くことが多く、その間隔は1分間に1回から5回の割合で聞かれ、20回以上も連続して鳴くこともあった(1983. 1. 17, 1984. 12. 30)。なお、日中の鳴き声は、1984年12月27日の15時50分にねぐらから飛び出す時に「ギャー」と鳴いた1例だけであった。

コミミズクは夜間に埋立て地を低空で羽音をたてずに飛び廻ったり、杭や小高い場所にとまっていて、ネズミ類を見つけるとすばやく捕食する。このように警戒心の強いネズミ類の不意をつく採食方法を行なう本種にとって、夜間の活動時間中に飛びながら大声をだして鳴くことは、採食行動に対し不利益なように思われた。

しかし、飛翔中に連続して鳴いている時は2羽で追いかけて合っていることが多く、日没後の活動開始直後や月夜の薄明りい夜間には、この行動を観察することができた(1980. 12. 31, 1985. 1. 28, など計10例)。また、地上や杭の上にとまっている個体の上空を他の個体が通過すると、鳴きながら追いかけていくのを1回観察した(1980. 1. 20)。特に注目されるのは、1982年2月15日の17時19分に地上から飛びだしたコミミズクが低空を飛ぶチュウヒに向かってギャー、ギャー、ギャーと3回鳴きながら追いかけたことと、1984年12月30日の16時53分に、鳴き声は聞かれなかったが、アシ原上空を飛ぶチュウヒをコミミズクが追いかけたことである。逆に1985年1月7日には、杭の上にとまっていたトラフズクが、17時16分にコミミズクが上空を通過するとすぐに飛びたって鳴きながら追いかけて行なった。なお、このトラフズクは「ヒツニエー」や「ミャー」という鳴き声をだし、コミミズクより音量が小さかった。

この空中で鳴きながら追いかけて行なう行動や、同種のみならず他の猛禽類に対しても鳴きながら追い出し行動を行なうのは、コミミズクが越冬地において夜間の活動時間中に採食に関係するテリトリーを持つ可能性を示唆している。

日本国内においてはコミミズクの鳴き声に関する記述はほとんどない。これは、夜間の調査があまり行われないか、あるいは、もしもコミミズクが採食テリトリーを持つ種であるならば、当地のように越冬個体数が比較的多い地域でなければあまり鳴き声を聞くことができないからなのかも知れない。

文献

石川免 1982. コミミズクの鳴く夜. 野鳥47(3):29.

CALL OF THE SHORT-EARED OWL *ASIO FLAMMEUS*

TSUTOM ISHIKAWA

There are few descriptions of the call of the Short-eared Owl *Asio flammeus* in Japan. The author has gone to Keiyoko reclaimed land 88 times and listened to the call of the owl 55 times from January 1980 to March 1985. The call of owl is usually loud and sounds like "gya-aw-", "gyaw" or "gya", and unusually "ge, ge, ge.....", "pie-pie-pie", or "ho-ho-", in small voice. It seems that the loud call of this owl is related to the territorial activity.

1.2-49-4, Hama-cho, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103.

1985年9月30日受理

1. 〒103東京都中央区日本橋浜町2-49-4. (千葉県支部)

東京港野鳥公園でのシロハラミズナギドリ

*Pterodroma hypoleuca*の死体発見

宮林泰彦

1985年8月23日、東京都大田区大井その1埋立地内にある東京港野鳥公園（大井野鳥公園）にてシロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca*雄1羽の新鮮な死体を拾得したので報告する。

この死体は公園の観察広場の観察壁の外側に落下していたもので、筆者および来園中の日本野鳥の会会員2名によって発見された。死体は速やかに神奈川県立博物館中村一恵学芸員の元へ運ばれ、同博物館に保管されている。

同個体の各部計測値は次のとおりである。

翼長 217.5 mm

尾長 121.5 mm

露出嘴峰長 24.6mm

鼻孔前縁より嘴端までの長さ 18.3mm

会合線 27.8mm

鼻孔における嘴高 10.2mm

口角における嘴幅 9.0mm

跗蹠長 29.1mm

なお、計測は中村一恵氏にお願いした。同氏に感謝する。

OCCURENCE OF *PTERODROMA HYPOLEUCA* AT OI BIRD PARK

YOSHIHIKO MIYABAYASHI

A male bird of Bonin Petrel *Pterodroma hypoleuca* was found dead at Oi Bird Park,